

授業科目	臨床心理学特論Ⅱ		担当教員	池田 久剛	
展開方法	演習	単位数	2単位 必修	開設時期	後期
【授業目標】					
<p>臨床心理学的面接は、クライアントに会う前から始まっていると言える。クライアントに会うに際して、臨床心理士はそのおかれた臨床の現場に応じた面接をアレンジしていかなければならないが、そのためにも、アレンジする土台としての「型」はわかっておく必要がある。</p> <p>「型」とは、目に見える形式や枠組みの設定もさることながら、なぜそのようなアレンジを施すのかといった、背景にある「イメージ」を描けることが肝要であろう。</p> <p>その「イメージ」を描くに当たって、臨床心理士の最大のツールとも言える「言葉」にもこだわりつつ、「言葉」と「イメージ」を行ったり来たりしながら場を設定しクライアントを理解する準備を行っていききたい。</p>					
【授業方法】					
<p>テキストを事前に読み、毎回授業での発表を基本とする。また、レポートに基づいたディスカッションを通して、各自考察を深め、コミュニケーションを通じて相互理解を深める。</p>					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、発表の計画など 2. 治療構造 3. 見立て① 4. 見立て② 5. 治療契約 6. 聴くこと 7. 介入 8. 転移と逆転移 9. 解釈とは 10. 解釈の伝え方 11. 転移とワークスルー（徹底操作） 12. 治療プロセスで起きること① 13. 治療プロセスで起きること② 14. 終結 15. まとめ・総括 					
【評価方法】					
<p>授業での発表と、ディスカッションへの参加などを、総合的に評価する。</p>					
【教科書・参考書】					
<p>教科書 「私説対象関係論的心理療法入門」松木邦裕 金剛出版 「セラピストのためのフォーカシング入門」日笠摩子 金剛出版 「私説・臨床心理学の方法」渡辺雄三 金剛出版</p> <p>参考書 「思想史のなかの臨床心理学」實川幹朗 講談社メチエ 「精神療法入門」R. ラングス、妙木浩之監訳 金剛出版 「病院における心理療法」渡辺雄三 金剛出版 その他、適宜紹介する。</p>					
【学生に期待すること】					
<p>授業への積極的な参加はもちろん、一人一人がグループの議論を促進するファシリテーターとしての役割をとれることを期待する。準備学習として発表者は単なるテキストの抜き書きではなく、それを自分の言葉で表現すること。その過程で自分はどこが理解できないのかを明確にし、自分で調べられるところは自主的に調べて報告すること。また、復習として、テキストを鵜呑みにするのではなく、自らの体験を通して批判的に読みこなし、自分の考えを展開する力をつけていただきたい。</p>					